NIE実践報告

1．タイトル：委員会活動におけるさまざまなスタイルの新聞づくりの実践

2．学校名

東京都大田区立東調布第一小学校

3．実践者名（代表者名）

佐野一道

4．学年

5、６年生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

新聞委員会　17人

6．単元（本時の学習課題）名

7．目標(狙い)

新聞作りを通して、よりよい学校にする。

8．評価の視点

学校生活をよりよいものにするため、工夫できたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

スタイルⅠ「パソコン新聞」（編集ソフト「パーソナル編集長」を活用）
①取材してきた内容を各委員がパソコン室の子機でワープロソフトに打ち込む。
②親機で担当教諭が原稿を吸い上げ、編集ソフトに流し込む。

スタイルⅡ「手書き合作新聞」（東京都小学校新聞教育研究会が推奨する新聞づくり）
①あらかじめ紙面割をしておいた都小新研の新聞用紙を５人程度に切り分けて分担して記事を執筆する。
②つなぎあわせ、罫線を引いたり、題字をつけたりして印刷する。

スタイルⅢ「スクラップ新聞」（当該年度は、「心があたたまる記事を伝える」をテーマにした」
①各委員が選んだ記事をそれぞれＢ４用紙に貼り、要約や感想、解説、挿絵などを添える。
②当番の日に、掲示する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

スタイルⅠ……本物の記者みたいで楽しいが、原稿を打ち込むのが大変で、居残りが多かった。
スタイルⅡ……グループで編集会議を開いて楽しい。字が苦手だと書くのが大変。
スタイルⅢ……いろいろな新聞記事を読むことができ、新聞に関心をもてた。

12．成果と課題

スタイルⅠは、編集ソフトを使うだけあって、見栄えのする紙面を作ることができる。写真を多用したので、多くの児童が注目してくれた。しかし、委員だけでなく、構成する担当教諭の負担も非常に大きかった。
スタイルⅡは、手書きなので、温かみのある紙面を作ることができた。手書きをつなぎあわせるので、担当教諭の負担は少なかったが、取材活動への指導を徹底するかどうかで、負担も記事の質も変わる。
スタイルⅢは、毎日当番でスクラップを掲示していったので、常時活動をすることができた。ただし、自分の学校の話題を取り上げるわけではない。その点をよしとするかどうか判断がわかれる。